

報道関係各位

～第20回日本抗加齢医学会総会にて発表～

**植物エキスとして初めて、「米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）」に
細胞内「酸化タンパク分解酵素(OPH)」を活性化する作用を発見****「米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）」による「くすみ改善」効果が期待**

株式会社再春館製薬所（本社：熊本県上益城郡益城町 代表取締役社長 西川正明 以下、再春館製薬所）は、257種の植物サンプルを評価し、**米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）に抗カルボニル化・抗糖化の作用があり、植物エキスとして初めて、細胞内の酸化タンパク分解酵素(OPH)を活性化することを発見し、特許出願をいたしました（特願2020-123905）**。本研究の成果は、「第20回日本抗加齢医学会総会」（2020年9月25日～27日）にて発表いたします。

■ 本研究の要約～くすみの改善効果が期待される素材「米ぬか」～

美容の悩みに「くすみ」を上げる人は多く、「くすみ改善」は基礎化粧品に強く望まれる効果のひとつです。

くすみの一因に挙げられるのは、脂質過酸化反応の最終生成物であるカルボニル化タンパク質(CPs)や糖化タンパク質が皮膚における細胞機能低下を引き起こします。再春館製薬所は257種の植物サンプルをスクリーニングし、**カルボニル化タンパク質(CPs)を分解する「酸化タンパク分解酵素(OPH)」を細胞内で活性化させる作用を「米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）」に認めました**。これまでも同酵素を活性化する植物エキスは報告されてきましたが、今回のように**「細胞内での活性化」が確認された植物エキスは初の発見**にあたります。

くすみ改善効果への期待から、化粧品原料として「米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）」の今後の応用も検討していきます。

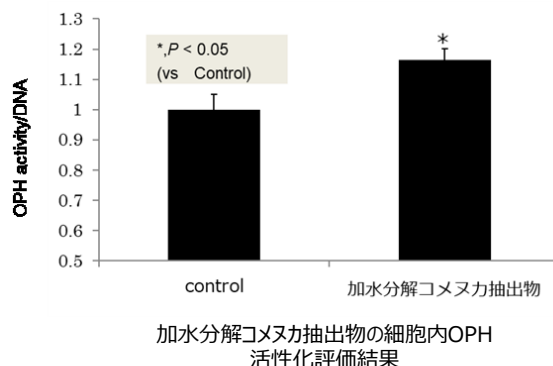


写真：米ぬか

■ 研究の背景および成果

カルボニル化タンパク質(CPs)は、乾燥や黄ぐすみなど見た目への関与も報告される、皮膚老化要因のひとつとして注目されているタンパク質です。再春館製薬所はくすみへのアプローチとして、生体内において同タンパク質の分解が示唆される**「酸化タンパク分解酵素(OPH)」に注目しました。同酵素が加齢と共に低下することから、酸化タンパク分解酵素(OPH)の活性化が抗加齢の鍵として非常に有望であると考えました。**

257種の植物サンプルから見出され、同酵素の活性化が認められた「米ぬか（加水分解コメヌカ抽出物）」は抗酸化活性が低いにも関わらず、タンパク質のアルデヒド化と糖化を阻害することで、表皮細胞における「抗カルボニル化作用」を発現すると考えられます。



学会名：第20回 日本抗加齢医学会総会

演目：「加水分解コメヌカ抽出物による真皮細胞の酸化タンパク質分解酵素(OPH)活性化および抗カルボニル化作用」

本件に関するお問い合わせ

株式会社再春館製薬所 熊本県上益城郡益城町寺中1363-1 <http://www.saishunkan.co.jp/>
本社 広報 江河真喜子 080-4458-2341 (担当直通) m.egawa@saishunkan.co.jp
TEL：096-289-4444 (代表) FAX：096-289-6000